

現在、好生館では、他の研究機関から検体・診療情報等の提供を受けて、研究の実施に利用しています。この研究は倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、実施しています。

<p>【研究課題名】 熱中症患者の医学情報等に関する疫学調査（Heatstroke STUDY）</p>
<p>【共同研究の代表責任機関及び研究代表者】 帝京大学医学部救急医学講座 教授 三宅康史</p>
<p>【利用・提供の対象となる方】 2017年7月1日から2017年9月30日、2018年7月1日から2018年9月30日、2019年7月1日から2019年9月30日、2020年7月1日から2020年9月30日、2021年7月1日から2021年9月30日、2022年7月1日から2022年9月30日、2023年7月1日から2023年9月30日、2024年7月1日から2024年9月30日、2025年7月1日から2025年9月30日までに帝京大学医学部附属病院高度救命救急センターおよび日本救急医学会指導医指定施設、救命救急センター、大学病院ならびに市中の救急部の中で研究への協力が得られた救急医療施設において、熱中症と診断された全ての入院患者を対象とする。</p>
<p>【提供を受けている共同研究機関及び研究責任者】 ○医学部救急医学講座 教授 三宅康史 ◎医学部救急医学講座 主任教授 森村尚登 医学部救急医学講座 助手 神田潤 日本救急医学会熱中症および低体温症に関する委員会 委員長 横堀将司（学外）</p>
<p>【提供をする検体・診療情報等の項目】 対象となる試料はない。 診療情報：年齢、性別、来院方法、発生状況、現場でのバイタルサイン、既往歴、生活歴、来院時の所見（身体所見・検査所見などの発生原因、治療法および転帰に関する情報）</p>
<p>【利用の目的】 1) 今まで何がわかっていて何がわかっていないのか 夏季になると熱中症の重症患者に関する報道が多くみられる。しかしながら、本邦における重症熱中症の実態については、ほとんど解明されていないのが現状である。 2) 何を明らかにしようとするのか 日本救急医学会熱中症および低体温症に関する委員会は2006年から熱中症の実態に関する全国調査を行い、重症者の多くが日常生活の高齢者であることを明らかにしてきた。今後は、その病態や治療方法について、より具体的な対策を講じていかねばならない。 3) それによって何が得られるのか 本研究は、重症熱中症の全国規模の実態調査であり、先の調査を基に調査項目を設定して、原因や病態の解明および治療や予後の実情を把握し、発生の予防に向けた地域医療へのアプローチを検討することを目的に行うものである。</p>

<p>【研究について】</p> <p>遺伝子解析研究 （有・<input checked="" type="radio"/>無）</p> <p>営利企業との共同 （有・<input checked="" type="radio"/>無）</p>
<p>【利用期間】</p> <p>倫理委員会承認後～2026年3月31日まで。</p>
<p>【佐賀県医療センター好生館 研究責任者及び問い合わせ担当者】</p> <p>研究責任者：救急科 氏名：吉富 有哉</p> <p>問い合わせ担当者：救急科 氏名：龍 知歩</p> <p>対応可能時間：平日9時～16時</p> <p>電話：0952-24-2171（代表）</p> <p>Eメール：rinsho@koseikan.jp（臨床試験推進部）</p>

研究の詳細についてお知りになりたい、またはこの研究に対して利用・提供してほしくないと思われた際には、好生館の問い合わせ担当者までご連絡ください。